

平成ジレンマ 公開記念

東海テレビドキュメンタリー 《傑作選》



●光と影

『平成ジレンマ』を生み出した東海テレビには、数多くのドキュメンタリーの傑作群がある。その中からギャラクシー賞大賞受賞作をはじめ、阿武野勝彦プロデューサー・齊藤潤一ディレクター作品を中心にセレクト。『平成ジレンマ』へと導いた「司法シリーズ」作品を始め、テーマは多岐にわたる。ドキュメンタリーの新たな地平を発見することになるだろう。

上映作品

- 2/19(土) 『光と影 ～光市母子殺害事件 弁護団の300日～』
- 2/20(日) 『罪と罰 娘を奪われた母 弟を失った兄 息子を殺された父』
- 2/21(月) 『村と戦争』
- 2/22(火) 『約束 ～日本一のダムが奪うもの～』
- 2/23(水) 『毒とひまわり ～名張毒ぶどう酒事件の半世紀～』
- 2/24(木) 『検事のふろしき』
- 2/25(金) 『裁判長のお弁当』

日時: 2月19日(土)～25日(金) 14:40～ 会場: ポレポレ東中野

企画: 東海テレビ放送 企画協力: 東風、ポレポレ東中野

『平成ジレンマ』のルーツはここにあった!!



●光と影

2/19(土)14:40～ **光と影 ～光市母子殺害事件 弁護団の300日～** 2008年/50分

ナレーション:寺島しのぶ | プロデューサー:阿武野勝彦 | ディレクター:齊藤潤一

日本民間放送連盟賞 最優秀賞、芸術祭 優秀賞、ギャラクシー賞 優秀賞

●殺人鬼を守る鬼畜弁護団というバッシング。この事件で弁護士たちは激しく非難された。1999年山口県光市で発生した母子殺害事件。当時18歳1ヶ月の少年が逮捕された。世間は、犯人を死刑にせよと熱狂していた。報道も、被告の発言を「荒唐無稽」と切り捨て、弁護など不要という世論に加担していた。鬼畜と呼ばれた弁護団の内部にカメラを入れ、社会の深層を照射した。



●罪と罰

2/20(日)14:40～ **罪と罰 娘を奪われた母 弟を失った兄 息子を殺された父** 2009年/50分

ナレーション:藤原竜也 | プロデューサー:阿武野勝彦 | ディレクター:齊藤潤一 | FNSFキュメンタリー大賞 大賞

●犯罪被害者は、みな死刑を求めているのか…。2007年、名古屋・間サイ事件で娘を殺害された母、磯谷富美子さん。1983年、半田保険殺人事件で弟を殺された兄、原田正治さん。1994年、長良川木曾川連続ランチ殺人事件で一人息子を失った父、江崎恭平さん。死刑の現実と遺族の多様な思いを、肉親を殺害された3人の取材で明らかにする。



●村と戦争

2/21(月)14:40～ **村と戦争** 1995年/71分

ナレーション:杉浦直樹 | プロデューサー・ディレクター:阿武野勝彦

日本民間放送連盟賞 優秀賞、ギャラクシー賞 優秀賞、放送文化基金賞 優秀賞

●人口3,000人。小さな村の戦争とその傷痕。岐阜県東白川村。戦後50年という年に、村の古老たちが、各戸を回り、平和祈念館に収めるために戦争関連の遺品を収集していた。ハワイ真珠湾へ参加した雷撃隊員、満州開拓団、学徒出陣の兄と植物図鑑の好きな弟。半世紀たった山里で戦時品が語ります。



●約束

2/22(火)14:40～ **約束 ～日本一のダムが奪うもの～** 2007年/50分

ナレーション:小西美帆 | 音楽:間宮芳生 | プロデューサー・ディレクター:阿武野勝彦 | 取材:鈴木祐司

地方の時代映像祭 グランプリ、日本民間放送連盟賞 優秀賞

●人生最大の悲劇は、金に換えられないものを力づくで奪われたり、騙し取られたりするのではない。岐阜と福井の県境。「徳山ダム」のため徳山村は水没し廃村となった。行政は水没する道の代わりに新しい道路網の建設を約束したが、平成の市町村合併のドサクサにまぎれて反故にした。故郷を奪われ、道まで奪われた村民の怒り。取材開始は32年前。



●毒とひまわり

2/23(水)14:40～ **毒とひまわり ～名張毒ぶどう酒事件の半世紀～** 2010年/50分

ナレーション:仲代達矢 | 音楽:鈴木よしひさ | プロデューサー:阿武野勝彦 | ディレクター:齊藤潤一 | ギャラクシー賞 奨励賞

●司法は、獄中死を望んでいる…。1961年、三重県名張市で起きた女性5人の毒殺事件。犯人とされた奥西勝死刑囚は、一貫して獄中から無罪を訴え続けている。2010年4月、最高裁は名古屋高裁へ審理を差し戻した。鈴木泉弁護団長は「一日も早い釈放を勝ち取る」と言う。しかし、奥西は84歳…。帝銀事件の周辺も辿り、一度下した判決に固執する司法の姿を浮き彫りにする。

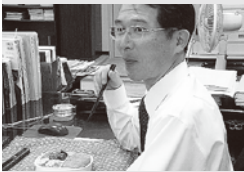


●検事のふろしき

2/24(木)14:40～ **検事のふろしき** 2009年/53分

ナレーション:宮本信子 | 音楽:本多俊之 | プロデューサー:阿武野勝彦 | ディレクター:齊藤潤一 | ギャラクシー賞 奨励賞

●撮影絶対禁止の検察庁。そこにカメラを長期に入れた。検事は、法廷に行く際、濃紺の風呂敷を持っている。大きな風呂敷の中には、被告の罪状の一部始終が入っている。裁判員裁判の導入前夜、日本で初めて検察庁の内部に長期密着取材を敢行し、『公益の代表』として仕事にあたる検事たちの知られざる姿を映像化した。



●裁判長のお弁当

2/25(金)14:40～ **裁判長のお弁当** 2007年/48分

ナレーション:宮本信子 | プロデューサー:阿武野勝彦 | ディレクター:齊藤潤一 | ギャラクシー賞 大賞

●弁当が二つ。ある裁判長の注目すべき日常。妻妾弁当を毎日昼と夜、執務室で二回食べる生活サイクル。日曜も祝日も夜十時まで仕事を続けている。名古屋地裁の天野裁判長は、毎年400件の新規事件と100件の裁判を同時進行しなくてはならないのだ。日本で初めて、現役の裁判長に長期密着し、裁判所の内部そして裁判官の肉声を世に出したドキュメンタリーである。

2月19日(土)～25日(金)
連日14:40～ 入場料金1,000円(税込)

ポレポレ東中野
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-1
ポレポレ坐ビル地下
03-3371-0088 | www.mmjp.or.jp/pole2



平成ジレンマ 公開前夜祭 開催決定!!
上映『裁判長のお弁当』と
トーク「テレビと映画、ドキュメンタリーの境界線」
2月4日(金) 18:30開場 / 19:00開演 ※終了21:00目安
会場:ポレポレ坐 入場料金:1,500円(1ドリンク付き)
ゲスト:田中早苗(弁護士)、石井彰(放送作家)、
阿武野勝彦プロデューサー、齊藤潤一監督
●お問い合わせ:東風 03-5155-4362

「戸塚ヨットスクール事件」から30年——あの時代が裁いたものは何だったのか。

平成ジレンマ

ポレポレ東中野にて
2月5日(土)よりロードショー公開
10:20～/12:30～/※14:40～/16:50～/19:00～
※2/19～25 14:40の回は特集上映のため、休映となります。

特別鑑賞券 1,400円絶賛発売中 当日一般1,700円 | 大:専1,500円 | 中高:シニア1,000円
初日舞台挨拶 2/5(土)初日10:20の回の上映終了後、12:30の回の上映前
登壇者:齊藤潤一監督、阿武野勝彦プロデューサー

